



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

《令和4年度 新年度・新学期が始まりました》

4月に入り、校庭の草木も新しい葉を広げ、緑がまぶしくなってきました。春の訪れとともに、堀船中学校でも令和4年度の新学期が始まります。新入生69名、2年生71名、3年生65名、全校生徒205名での船出です。

新たな気持ちのもと、共に助け合いながら、新年度・新学期をスタートしましょう。

思いやりや優しさを持って、友達・仲間を大切にしながら、みんなで前向きに取り組んでいってください。そして、堀船中の良い伝統を受け継ぎながら、生徒のみなさんと教職員が一丸となって、より良い学校をつくっていきましょう。

《本校の教育目標等です》

北区教育ビジョン2020の人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康にして、国際的視野に立った社会に貢献し、自立した人を育成する。

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

【目指す堀船中学校像】

- ・生徒が主体的・協働的に学び、自ら問題解決を求める授業が展開される学校
- ・思いやりの心と、互いに認め合い、励まし合い、高め合う人間関係がある学校
- ・心身ともに健康で、豊かな心を育む学校 ・明るく元気な挨拶が飛び交う学校 ・地域に愛され、落ち着いた環境が整備された学校

【目指す堀船中生徒像】

《生活目標:堀船中生5項目》（生徒手帳掲載）

- 1 何事にもみんなで協力して取り組む堀中生
- 2 すべての人に思いやりの心が持てる堀中生
- 3 誰にでも自分から先にあいさつができる堀中生
- 4 どんな時にも時間やルールマナーを守る堀中生
- 5 誰の話でもきちんと聴くことができる堀中生

《堀船中ホームページ》

北区メール配信サービスと連動してお伝えします。メインサイトは、学校で配布する様々な通知や各種たよりを掲載し、学校が発信する情報をお知らせします。また、生徒のみなさんが活躍する姿や、教育活動の様子をできる限り伝えていきます（ほぼ毎日更新しております。生徒の様子をご覧ください）。

ホームページが更新されたこと等は随時、北区メール配信サービスを活用してお知らせいたします。メールには、ホームページにすぐアクセスできるようにリンクを貼っているため、スマホ等によりその場でご覧いただけます。メールやホームページの情報は、お子様とぜひ、共有してご活用ください。

《令和3年度卒業生よりいただきました》



卒業生より、手作りの花台を卒業記念品としていただきました。きれいなお花を飾って、大切に使用させていただきます。ありがとうございます。



堀船中ホームページ QRコード

北里柴三郎の歩んだ道（2）～東京医学校に入学して～

東京医学校に入った北里は、高度な授業内容に感銘を受ける一方で、生徒の個性と主体性を重んじたマンسفエルトの教育方針に改めて感謝の思いを深めました。そして、熊本医学校を出る際にマンسفエルトが語った言葉を思い出します。「医学の使命は病気から生命を守り予防することにある」。その言葉に導かれるように、北里は予防医学を生涯の仕事とすることを決意しました。

東京医学校は、明治10（1877）年には「東京開成学校」と合併して、東京大学医学部となります。校長は、日本人の長与専齋でしたが、教師陣は「お雇い外国人」と呼ばれる明治新政府が雇った人々で、東京医学校の場合は、ドイツ人がほとんどでした。現在でも医師は診察記録のことを「カルテ」と呼びますが、この言葉はドイツ語です。医学分野では、こうしたドイツの知識を輸入した影響が今でも多く残っています。

北里は、この東京大学である人物と出会うこととなります。それは、後年、黒死病（ペスト）調査のために北里とともに香港に赴くことになる青山胤通でした。こんなエピソードが残っています。ある日、外国人医師からの質問に青山がうまく答えられないのを見た北里は、つい笑ってしまいました。それを見た青山は大いに怒り、手に持っていた骨格標本の大腿骨を握りしめて、振り向きざまに北里の頭を殴ろうと襲いかかってきたのです。結局その場は何とか収まりましたが、青山の怒りは消えることなく、北里のことをひどく恨みました。そしてこの学生時代の些細な出来事は、凶らずも後の北里に大きな影響を与えることとなります。

青山をはじめ東京大学では多くの出会いを経験した北里でしたが、実は在学中に自ら数十名の仲間を誘って「同盟社」という学生結社を組織しています。活動の中心人物として、北里は毎週土曜日に東京大学の大学構内で演説会を開催し、政治・外交・軍事・教育・医療などあらゆる分野の問題について活発に討論を行いました。

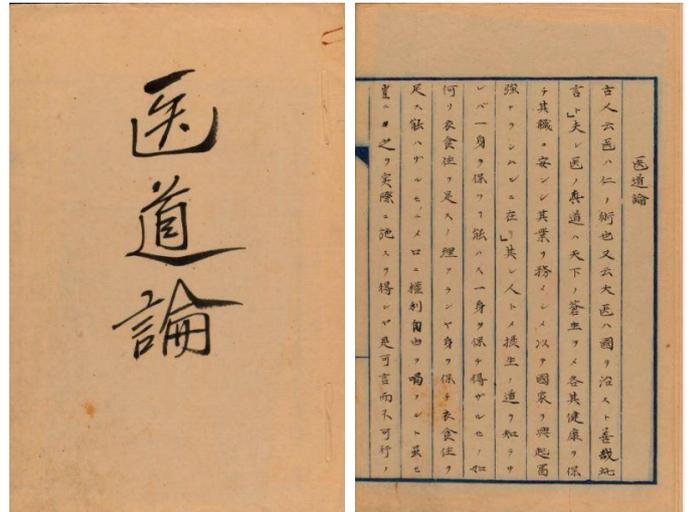
北里の演説の自筆原稿「医道論」が、港区白金の北里研究所北里柴三郎記念室に残されています。北里はこう語ります。「国の基本は国民の健康にあり、医学の基本は、人びとが健康を保てるように生命を病気から守り、病気を未然に防ぐ」ことにある。また、「今日の東京大学の医学生半数は国民の血税を学資としている。税金は国民が一日も休む暇なく苦しい生活の中で納税した金である。その血税を無駄遣いし、自分の実力で学問が進歩するのだから国が資金を出すのは当然だと勘違いをしているのなら、とんでもないことである。このような卒業生が大学や病院に就職すると、栄華を求め、さらに医学を志す者がいなくなる。今から医学をめざすものは、医学の基本に立ち返らなければならない」。そこには、医学を志す北里の若い正義感と、その後の生涯を貫いた高潔な信念が何よりも雄弁に述べられています。



旧東京医学校本館（小石川植物園内）
【提供】東京大学総合研究博物館



東京大学医学部全景
【提供】東京大学総合研究博物館



演説原稿「医道論」表紙と1頁
【提供】学校法人北里研究所北里柴三郎記念室